

壁掛型遠赤外線暖房機 据付説明書

CHK-C126/DHK-C1216

製品を安全にお使いいただくために、据え付け工事をする前に必ずこの据付説明書をお読みください。据え付け工事は販売店・工事店様の電気工事が資格者がおこなってください。お客様自身で据え付けしないでください。別冊でお客様用の取扱説明書が同梱されていますので、据え付け完了後に必ずお渡しください。本製品の施工にあたって、地域により防災上の制限（火災予防条例に基づく指導）がありますので、ご不明な点は行政官庁または消防署にお問い合わせください。

安全上のご注意（必ずお守りください）

- ご使用前に、この安全上のご注意をよくお読みになり、正しく据え付けてください。
- ここに示した注意事項はお使いになる方や、他人への危害と財産の損害を未然に防ぎ安全に正しくお使いいただくために重要な内容を記載しています。次に示す表示と意味をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

○誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

警告	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示します。
注意	取り扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される内容を示します。

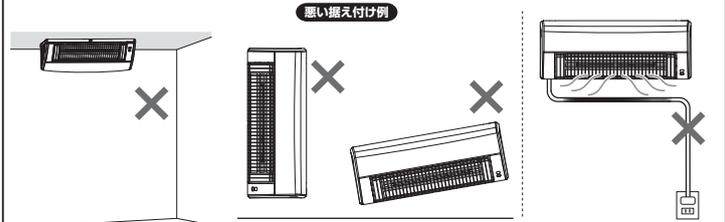
○お守りいただく内容の種類を、次の絵表示（例）で区分し、説明します。

	この記号は「警告」「注意」を促す内容があることを告げるものです。図の中には具体的な注意内容（左図の場合は一般的な注意）が描かれています。
	この記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中には具体的な禁止内容（左図の場合は一般的な禁止）が描かれています。
	この記号は行為を強制したり、指示したりする内容を告げるものです。図の中には具体的な強制内容（左図の場合は一般的な強制）が描かれています。

	警告
	据え付け工事はこの据付説明書に従って確実にこなす 据え付けに不備があると感電や火災の原因になります。
	改造はごこない。修理技術者以外の方は、修理や分解をしない 異常動作をしてけがをするおそれがあります。
	浴室などの湿気の多い場所や、温泉、汲み取り式のトイレなどでは使用しない 感電や火災、故障の原因になります。
	電気工事をおこなう場合は、「電気設備技術基準」や「内線規定」に基づき、電気工事士の資格を持った方がおこなう 接続が不適切な場合、感電、漏電、発熱、火災などの原因になります。
	交流100V以外では使用しない 定格以外の電圧で使用すると感電や火災の原因になります。
	定格15A以上のコンセントを単独で使用する 他の器具と併用するとコンセントが異常に発熱して火災の原因になります。
	アース（接地）を確実にこなす（電気工事をおこなう場合） アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不確実な場合は、故障や漏電のときの感電の原因になります。
	電源コードの途中で接続、延長コードの使用、他の電気器具とのタコ足配線はしない 感電や火災の原因になります。
	電源コードを傷ついたり、無理に折ったり、曲げたり、束ねたりしない 電源コードが破損して、感電や発熱、火災の原因になります。
	コンセントの差し込みがゆるいときや電源プラグが傷んでいるときは使用しない 感電や火災の原因になります。
	本体やリモコンに直接お湯や水、カビ取り剤などがかかる場所に据え付けしない ショートや感電の原因になります。
	スプレー缶や有機溶剤などを本体の近くに置かない 熱でスプレー缶などの圧力が上がり、爆発や火災の原因になります。
	周りに可燃物や障害物を置かない 火災や、やけどの原因になります。

	注意
	据え付けは器具の重量に耐えるところに確実にこなす 強度不足や据え付けが不安定な場合は器具落下によるけがの原因になります。
	ファンやヒーターにさわったり、吹出口などから指や物を差し込んだりしない 感電や、けが、やけどのおそれがあります。
	強い振動や衝撃を与えない ヒーターが破損し、感電やけがの原因になります。
	据え付け作業をするときは手袋を着用し、足元に十分注意する 転倒やけがをするおそれがあります。

- 据え付け前のお願い（器具の据え付けの際は、以下のことにご注意ください）**
- この製品は脱衣室や小部屋、水洗トイレなどの壁掛専用暖房機です。浴室やプールなどのぬれる場所、温泉や汲み取り式トイレのような腐食しやすいガスが発生する場所、室外といった特殊な環境での使用はおやめください。
 - 本製品は一般家庭用の製品です。工場や倉庫など一般家庭用以外（業務用）の用途で使用すると、故障の原因になりますので、一般家庭以外では使用しないでください。
 - 器具を天井など逆さに据え付けたり、縦や斜めに据え付けることはおやめください。
 - 器具の真下など、熱が直接あたる場所には電源コードを配線しないでください。



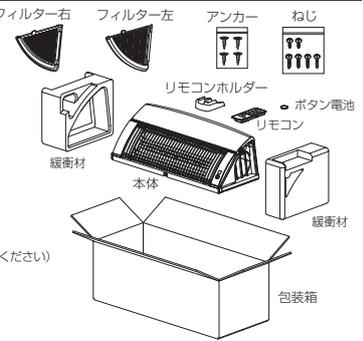
- 悪い据え付け例**
- 油煙やタバコの煙が多いところには据え付けしないでください。
 - 高温になる場所（周辺温度40℃以上）には据え付けしないでください。
 - 直射日光や蛍光灯の近くなど強い光があたる場所には据え付けしないでください。
 - 器具は床から1.8m以上の高さに据え付けてください。
 - 建築中やリフォームなどをおこなっている場所では、内装工事（クロス張り）が完了してから器具を据え付けてください。
 - 本体およびリモコンホルダーを壁面に据え付けるにあたって、ねじ穴を開ける必要があります。お客様にそのことをご了承いただいた上で据え付けをおこなってください。
 - フィルターは本体を壁に固定してから取り付けてください。
 - 据え付け時は本体やリモコンホルダーが傾かないように水平に据え付けてください。
 - 施工の際に、石膏ボードの粉などが器具内部に入らないよう注意してください。
 - 器具の質量は4.5kgです。据え付ける壁面に十分な強度があるかご確認ください。もし強度が足りない場合は、補強工事をおこなってください。
 - 推奨する部屋の適用面積の目安は1.5坪までです。部屋が広すぎる場合は、効果を十分に得られない場合があります。
 - 気密性や断熱性が低い部屋では性能が十分に発揮できない場合があります。特に大きい窓がある場合や、モルタル・タイル壁の部屋は温度が上昇しにくくなります。このような状況で、やむをえず器具を据え付ける場合はお客様にその旨を十分説明してください。

梱包とセットの確認

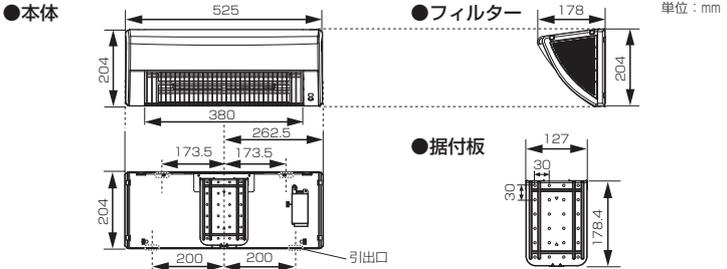
包装箱から緩衝材と器具本体を取り出し、中身に不足がないかご確認ください。

●セットの確認

1. 本体 … 1台
2. フィルター右・左 … 各1枚
3. 据付板 … 1枚（本体に組み付けてあります）
4. リモコン … 1個
5. リモコンホルダー … 1個
6. アンカー … 4本
7. 据付板固定用ねじ … 4本
8. リモコンホルダー 固定用ねじ … 2本
9. ボタン電池（CR-2032） … 1個
10. 取扱説明書（保証書付） … 1冊（必ずお客様にお渡しください）
11. 据付説明書 … 1部（必ずお客様にお渡しください）

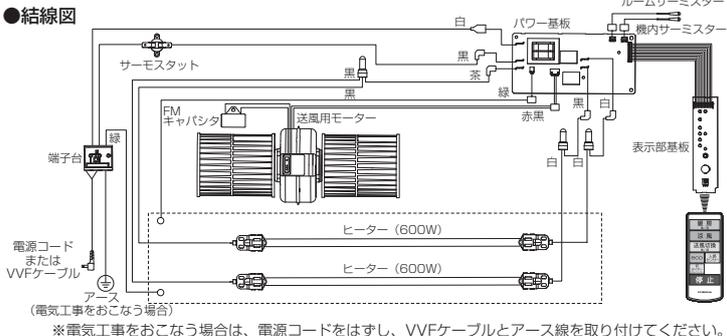


各部の名前と寸法



- 付属品
- 石膏ボード用アンカー（4本）
 - ボタン電池（CR-2032）（1個）
 - タップピンねじ 4×12 リモコンホルダー固定用（2本）
 - タップピンねじ 4×25 据付板固定用（4本）
 - 取扱説明書（1冊）（施工後必ずお客様にお渡しください）
 - 据付説明書（1部）（施工後必ずお客様にお渡しください）

- 必要に応じて現地で用意していただくもの
- アース線（銅線直径φ1.6以上の単線）/アース工事用
 - アース棒/コンセントからアースが取れない場合
 - VVVFケーブル（2芯φ1.6mm～2.0mm）/電気工事をおこなう場合
 - 補強材/壁補強用
 - コンセント



据付手順

- 1 据え付け位置の決定（床から1.8m以上の場所を選定）**
 - 壁の状態を確認。
 - 据え付けスペースの確認。
 - アース位置の確認。（電気工事をおこなう場合）
 - お客様に壁面に穴を開けて良いかの確認。
- 2 据付板の据え付け**
 - 据付板をがたつきのないように垂直に据え付ける。
- 3 電源の接続**

付属の電源コードを使用する場合	電気工事をおこなう場合
●電源コードを引き出す位置を決める。	●露出配線 ●コンセントの位置の確認。 ●アース線を接続する。（D種接地工事）
	●壁埋込み配線 ●配線する穴を開ける。 ●アース線を接続する。（D種接地工事）
- 4 本体の据え付け**
 - 本体を据付板に据え付ける。
- 5 リモコンホルダーの取り付け**
 - 取り付け位置をお客様と相談して決める。
 - リモコンホルダーを取り付ける。
- 6 試運転**
 - 取扱説明書を参照して動作確認をおこなう。

※施工中は電源プラグをコンセントから抜く。

据付方法

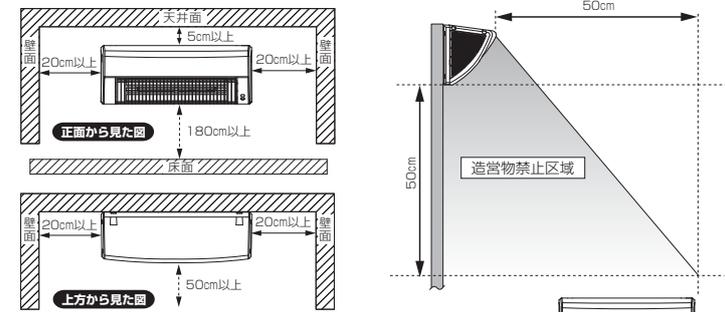
1 据え付け位置の決定

警告	浴室などの湿気が多い場所や、温泉、汲み取り式トイレなどでは使用しない 感電や火災、故障の原因になります。
	スプレー缶や有機溶剤などを本体の近くに置かない 熱でスプレー缶などの圧力が上がり、爆発や火災の原因になります。
	周りに可燃物や障害物を置かない 火災や、やけどの原因になります。
注意	据え付けは器具の重量に耐えるところに確実におこなう 強度不足や据え付けが不安定な場合は器具落下によるけがの原因になります。
お願い	フィルターは本体を壁に固定した後に取り付けてください 本体を持ち運ぶときに、本体が落下することを防止します。

- 据え付けようとしている部屋が、製品を使用できる環境であるかの確認
 - この製品は脱衣室や小部屋、水洗トイレなどの壁掛型遠赤外線暖房機です。
- 据え付け位置の壁強度の確認
 - 壁の状態を確認してください。強度が足りない場合は補強工が必要になります。
- コンセント位置の確認
 - 本体の周囲約200cm以内にコンセントがあるか確認してください。コンセントがない場合は、コンセントの増設工事を電気工事に依頼してください。
 - (コードの引き出し位置によって必要な長さは異なります。)

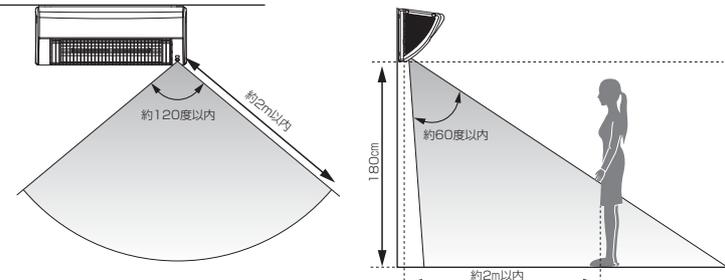
- 据え付け寸法の確認
本体の据え付け寸法
 - 本体の周囲に適切なスペースがあるか確認してください。
 - 本体の周囲に熱を逃がさないような造造物(照明など)がないかを確認してください。
 - ※窓枠は3cm以上突出している場合、造造物扱いとなります。

- 規定のスペース**
- 本体天井から天井面まで5cm以上*
 本体右側面から壁面まで20cm以上*
 本体左側面から壁面まで20cm以上*
 本体下面から床面まで180cm以上*
 本体正面から造造物まで50cm以上*
- ※設置する壁と天井の間に廻線などの凸部があると、据付板に本体を設置できなくなる場合があります。



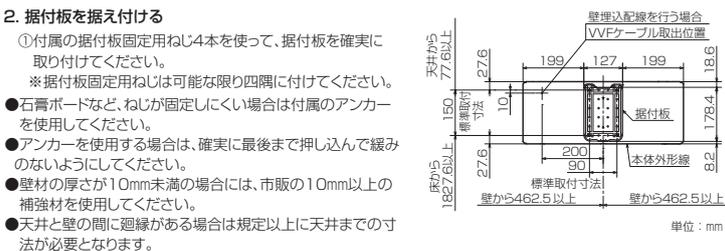
- リモコンの取り付け位置
 - リモコンは本体の真下に取り付ける場合、本体を据え付けた位置から50cm以上下の壁面に取り付ける。
 - 遮蔽物があると、リモコンが反応しないことがあります。
 - センサーを遮るような造造物がないか確認してください。
 - リモコンホルダー取り付け時に壁の強度を確認してください。

- 人感センサーの検知範囲の目安
 - 下図を参考にして、据え付け位置を決定してください。



2 据付板の据え付け

- 据付板の固定位置を決める
 - 据付板の本体固定用ねじをゆるめて器具本体からはずす。
 - 壁打センサーなどを使って、壁の中の構造物(柱など)を探す。
 - 据付板を壁に当てて、水準器などで水平かどうかを確認する。
 - 据付板の穴から壁に印をつける。



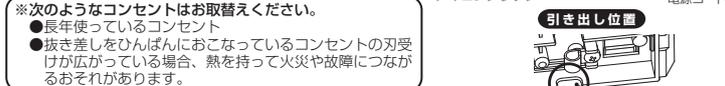
3 電源の接続

警告	電気工事をおこなう場合は、「電気設備技術基準」や「内線規定」に基づき、電気工事士の資格を持った方がおこなう 接続が不適切な場合は、感電、漏電、発熱、火災などの原因になります。
	電源コードを傷つけたり、無理に折ったり、曲げたり、束ねたりしない 電源コードが破損して、感電や発熱、火災の原因になります。
	コンセントの差し込みがゆるいときや電源プラグが傷んでいるときは使用しない 感電や火災のおそれがあります。

●電源の接続は、現場の状況またはお客様の要望に応じて、露出配線にするか、壁埋込み配線にするかを決定してください。

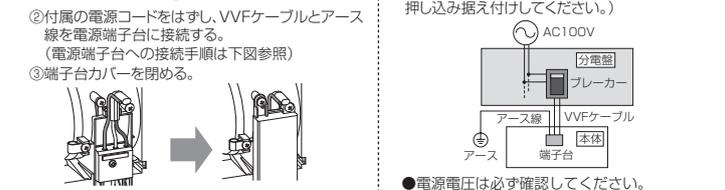
3 電源の接続(つぎ)

- 付属の電源コードを使用する場合
- 電源コード引出口4箇所の中から電源コードを引き出す位置を決める。
 - 決定した引出口を、ニッパーやカッターを使ってきれいにくりぬく。
 - 電源コードを器具本体背面のナイロンクリップを使って、引出口まで適切に配線する。(ナイロンクリップは5個付属)
 - コンセントが一番近い引出口を選んでください。
 - 電源コードは束ねないでください。
 - 器具の真下など、熱が直接あたる場所に電源コードを配線しないでください。



- ※次のようなコンセントはお取替えください。
- 長年使っているコンセント
 - 抜き差しをひんぱんにおこなっているコンセントの刃受けが広がっている場合、熱を持って火災や故障につながるおそれがあります。

- 電気工事をおこなう場合
- VVFケーブル(2芯 1.6mm~2.0mm)とアース線(銅線直径約1.6以上の単線)を使用してください。
 - 壁埋込み配線の場合は「2.据付板の据え付け」の図に従って、VVFケーブルを壁から取り出してください。(据え付け作業がおこないやすいように、長めに引き出してください。)



- 電源端子台の接続手順
- 端子台のリリースレバーをマイナスドライバーなどで押して付属の電源コードを引き抜く
 - VVFケーブルとアース線の芯線を真っすぐな状態で15mmむき出しにする
 - 端子台にVVFケーブルと、アース線の芯線を奥まで真っすぐ差し込む



4 本体の据え付け

- 本体の固定
 - 壁に固定した据付板上部につめに本体の引っ掛け穴を差し込む。
 - 本体下部を押し込んで壁に密着させる。
 - 据付板下部のねじ固定部に本体固定用ねじを締める。
- フィルターの取り付け
 - フィルター内側のつめを本体のレールに合わせます。必ずスライドさせる。
 - ※フィルターは両側にあります。

5 リモコンホルダーの取り付け

- リモコンホルダーの取り付け(取り付け位置は「据え付け位置の決定」を参照)
 - リモコンホルダーを取り付け位置に合わせる。
 - 付属のリモコンホルダー固定用ねじ2本を使用してリモコンホルダーを固定する。
- リモコンの設置
 - リモコン裏面のふたをコインなどを使って開ける。
 - 付属のボタン電池を入れてしっかりふたを閉める。
 - リモコンホルダーにリモコンを差し込む。

6 試運転

1. 配線や組み付けの確認
 - 据え付け終了後、配線や組み付けに誤りがないか再度確認する。
2. 電源を入れる
 - 付属の電源コードを使って電源を接続した場合は、電源プラグをコンセントに差し込む。
 - 電気工事をして電源を接続した場合は、ブレーカーをオンにする。
3. 動作の確認
 - 取扱説明書を参照して、動作の確認をおこなう。
 - リモコンホルダーにリモコンを入れた状態でキーが全部反応し、正しく運転するか確認する。
 - 異音や振動がないか確認する。
 - 周りに可燃物がないか確認する。

●試運転はお客様立会い、販売店か工事店の方がおこなってください。

試運転の後は

- 据え付け後は据付説明書とともに取扱説明書(保証書付)をお客様に渡し、動作の説明をおこなってください。
- 引渡まで時間がかかる場合は、電源プラグとリモコンの電池を抜いて、取扱説明書とともに保管しておいてください。